



# ひとりでも多くの命を救うために

## 自主防災組織をつくりましょう

自主防災組織とは「自分たちの地域は自分たちで守る」を理念とし、安心できる街をつくるために、住民のみなさんが協力しあって防災活動を行う組織です。みんなで話し合い、できることから始めましょう。

本部	<b>平常時の活動</b> 市役所、消防署などの連絡調整を行い、防災活動に備えます。 	<b>災害時には</b> 各活動班、市役所、消防署などの連絡調整を行い、現場をまとめます。 	救出・救護班	<b>平常時の活動</b> 救出用資機材の使用法、負傷者の搬出法、応急手当法の習得訓練を行い、医療施設や救護所の位置を確認しておきます。また、活動用資機材の整備点検を行います。 	<b>災害時には</b> 資機材を用いて救出作業を行うとともに、負傷者の応急手当を行い、医療施設や救護所に搬送します。 
	<b>情報連絡班</b> 防災訓練や講習会を通じて防災知識の普及活動を行います。また、回覧やチラシ等で住民へ防災の啓発活動を行います。 	<b>災害時には</b> 市や消防機関から情報を収集し、住民に対して正しい情報を伝達します。また、地域の被害状況や避難状況を市へ報告します。 		<b>平常時の活動</b> 複数の避難経路・避難場所を把握しておき、誘導訓練を行います。また、地域内の危険箇所を把握しておくことも必要です。 	<b>災害時には</b> 組織として安全な行動がとれるよう、避難場所までの確に住民を誘導します。 
消火班	<b>平常時の活動</b> 火災が発生した時に地域内に被害の発生、拡大につながる原因がないか確認したり、住民に対し消火器具の点検や効果的な消火技術の習得を行います。 	<b>災害時には</b> 周辺住民の協力を求めて初期消火を行い、火災の拡大を防ぎます。 	給食・給水班	<b>平常時の活動</b> 物資の備蓄・管理を行うとともに、マキ炊飯、ろ水器を使った飲料水をつくる訓練などを行います。 	<b>災害時には</b> 炊き出し、飲料水を確保するほか、食料品や救援物資の受け入れと配給を行います。 

## 避難行動要支援者について

災害発生時に自ら避難することが困難であり、その円滑な避難の確保を図るため特に支援を必要とする方を「避難行動要支援者」といいます。このような方々を災害から守るために、みなさんで協力しあいましょう。

### 高齢者・寝たきりの方のために

#### 日頃の備え

- 室内はできるだけ広くして、家具、棚の上に重い物、角のある物を置かない。

災害時には

- あわてて外へ飛び出さない。
- 本震がおさまっても余震に備えて、家の中の安全な場所に移動する。



#### ● 介助のポイント ●

- 緊急の時はおぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。

### 耳が不自由な方のために

#### 日頃の備え

- 日常から筆記用具を携帯しておく。

災害時には

- メモなどで、正確な情報を周囲の人に聞く。



- 話をする時は口の開け方をハッキリとし、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

### 目が不自由な方のために

#### 日頃の備え

- 白杖は必ず手の届く所に置いておく。
- 家具等の配置の変更は本人に必ず伝える。

災害時には

- 災害発生時には笛などを吹き、居場所を知らせる。
- 周りの人に安全な場所までの誘導を依頼する。



- 災害時には声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は杖を持った方の手には触れず、肘の辺りを軽く持ってもらい半歩前をゆっくり歩く。
- 方向や目の前の位置などは、時計の文字盤の位置を想定して伝える。

### 肢体が不自由な方のために

#### 日頃の備え

- 室内の安全スペースの確保と、家具等の転倒防止策を十分に取る。

災害時には

- 無理な行動をとることを避けながらも、頭部を座布団や手で守る。
- 車イスは安全な場所に止め、介助者の協力を求める。



- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、おぶり紐などを利用し、おぶって避難する。